



純金のことをどうして24金というの

純金は24カラット = 24金と決められている

合金（金をふくんだもの）の中にふくまれている、金の割合を表す単位を、カラット（K）といい、ほかの貴金属のまじりけがない純金を、24カラット（24K）としています。日本では、習慣的に24Kとか24金とかよんでいます。

ちなみに、20金は金をふくんでいる量が24分の20ですから約83%、18金は金の割合は75%、14金は約54%ということになります。

入れ歯の金の割合はまちまち

金はとても高いのですが、固さが歯にぴったりなので、入れ歯に使われることが多いです。しかし金冠、ブリッジ、総義歯など入れ歯の種類によって、金を含む割合はまちまちです。金冠ではその材料として、金の合金、銀の合金、ニッケルクロムの合金などが使われます。義歯のときは金の合金、鉄の合金、コバルトクロムの合金などが使われ、どちらも金歯といいますが、その種類や金の量はそれぞれことなります。（監修・保岡 孝之）

